



写真提供：佐伯泰英事務所

菊池寛の銅像にご挨拶。

瀬戸内海を跨いで四国丸亀に渡った。一応江戸期を舞台にした時代小説で糊口をしのぐ身としては、木

第八波のコロナ禍中、久しぶりの取材に行った。ぶらりと旅をして非日常の時の隙や空間から得た感慨を新作の物語に活かす、いい加減な取材旅行だ。

佐伯通信

2023年1月(令和5) 第62号
発行 佐伯泰英事務所
担当/文藝春秋 禁・無断転載

謹賀新年2023

造天守の「石の城」とも呼ばれる丸亀城へ挨拶に訪れ、愕然とした。「美しく曲線を描く石垣が見事」と書きたいが経年劣化と台風などの影響で大規模修復作業中だった。それでも見事な丸亀城だ。空也十番勝負「名乗らじ」にて丸亀を登場させればよかったか。

丸亀訪問のあと、高松に向かった。同行の娘に「高松って菊池寛通りというところがあるわね、どういふこと」と聞かれた。わが親子、関わりが深い文藝春秋社創業の菊池寛先生が高松生まれとは知らずにこの地を訪

佐伯泰英／近刊のお知らせ

5月9日	3月14日
《文春文庫》 空也十番勝負 10 『奔れ、空也』 完結 〔佐伯通信〕第64号が入ります。 〔初版の初回出荷分にはのみ挟み込み〕	《光文社文庫》 吉原裏同心 39 『晩節通路』 〔佐伯通信〕第63号が入ります。 〔初版の初回出荷分にはのみ挟み込み〕

※発売日は予定です。

▼ 文藝春秋

居眠り聲音・吉原裏同心・酔いどれ小籐次・密命…

＼あの佐伯作品が／
電子書籍で!

▼ 光文社

電子書籍のお知らせ

QRコード

文藝春秋 文春文庫部部長 大沼貴之

明けましておめでとうございます。この度は『荒ぶるや 空也十番勝負(九)』をお買い求め頂き有難うございました。聲音の嫡男・空也の武者修行を描く本シリーズもいよいよ終盤を迎えまして、今回の舞台は京の都、本年5月に刊行されます本シリーズ完結編『空也十番勝負(十)』へ繋がる重要な巻となります。そして、電子版でも楽しめるのが佐伯作品の有難いところ(私のような老眼には、本当に福音です)。「居眠り聲音」「酔いどれ小籐次」「照降町四季」の合本に加えて、電子書籍限定版の「合本 完本 密命」「鎌倉河岸捕物控」も毎月一巻ずつ刊行中です。今年も佐伯先生のご活躍をお楽しみに!



別緊張もしない。されど時代小説文庫書き下ろし作家がこの二十数年のうちに三百冊近くの小説を刊行し、その大半が文庫文庫にお世話になっている。となると恐れ多くも菊池寛先生の呼称のひとつ「大衆作家」を三文作家が騙ってきた状態で菊池寛通りを歩き、菊池寛記念館を訪ね、「ほうほう」と得心した風に見て回り、銅像や肖像画の前では、「菊池先生、ふだんからお世話になっております」と丁寧に挨拶した。

同業とはいえこちらは高名な大作家でないゆえに格

「佐伯通信」第63号は、3月14日刊行予定の「吉原裏同心 晩節通路」(光文社文庫)に入ります。

空也十番勝負 ついに完結!

はし『奔れ、空也』 2023年5月9日発売決定!

近刊・作品情報はこちらでもチェックできます。
<https://www.saeki-bunko.jp> 佐伯泰英 ウェブサイト 検索

2023年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が㈱光文社、㈱文藝春秋の協力のもと発行します。

出版社からののお知らせ 文春文庫

毎月2冊 絶賛刊行中!

吉原裏同心 決定版

「吉原裏同心」25巻「吉原裏同心抄」6巻
「新・吉原裏同心抄」4巻を統一。
カバーデザイン一新、全編加筆修正。



並べると背は一続きの美しい花の絵に!

出版社からののお知らせ 光文社文庫